

人と自然の交差点 「都立狭山・境緑道」

新町3丁目起点となる「都立狭山・境緑道」は、武蔵野台地の緩やかな傾斜を感じながら進む一本道。毎日の散歩・通勤通学だけでなく、ランニングやウォーキングのメッカ。実は、わざわざこの地を訪れる人も多いという、知る人ぞ知るスポーツの観光スポット。



新町は、都立狭山・境緑道、千川上水、国史跡・玉川上水など、自然豊かな環境が東西にのび、身近に自然に親しめるエリアです。
都立狭山・境緑道の沿道には、小金井公園など大小さまざまな公園があり、春の訪れを告げるロウバイや桜、アジサイや紅葉など、季節の移ろいを楽しめます。自転車と歩行者の専用道路で、通勤・通学・ランニング等、毎朝毎夕多くの人が利用しています。

れた一般都道で、1923年（大正12）～1925年（大正14）に作られました。送水管は地下95センチの深さに、ほぼ直線に埋設され、周囲には街路燈用の電気設備や下水管が部通っています。
狭山境緑道の名物「馬の背」は、土手のような景観や見晴らしの良い景色から親しまれている、緑道のシンボリック存在。緑道の大きな木々が突然開け、空と土手が現れます。高台の理由は、土手の下を通過している石神井川。もともと石神井川の流れて形作られた窪地ですが、水道管を横断させることで、直進させた構造となっています。その周りに盛り土がなされ、結果的に土手「馬の背」となり、様々な植物や昆虫が生息する生態系がつけられている緑地です。



馬の背付近の送水管は、深さ95cm。口径は41.3cm×30.0cm(馬の背～向台6丁目第一公園の間)、27.8cm×28.8cm(向台6丁目第一公園前)の四方形をしている。



狭山湖～境浄水場間をつなぐのが「多摩湖自転車歩行者道（保谷狭山自然公園自転車道線・東京都道253号）」で、全長21・9km。サイクリングロードなどの愛称でも親しまれています。都立狭山・境緑道は、その一部を緑化した遊歩道で、西東京市新町3丁目を起点に東大和市までの約10・5kmの緑道を指します。

この緑道（自転車歩行者道）は多摩湖から境浄水場に水を運ぶために埋設された送水管の上に設けら
西東京市の南側に位置する新町は、東西に約2・0km、南北に約0・85km。一周約5kmになる横長の地形です。地域の鎮守神「阿波洲神社」や、昭和に賑わっていた柳橋交差点付近の商店街、新町1丁目のUR

新町を起点とする自然豊かな自転車歩行者道

馬の背自然図鑑



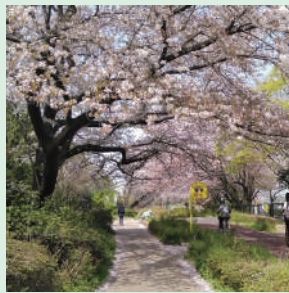
茅(チガヤ)

イネ科チガヤ属。4～6月に花穂をつけ若いものは甘味がある。古くから親しまれている多年草。



ウmanoアシガタ

キンポウゲ科キンポウゲ属の野草。別名キンポウゲ(金鳳花、毛茛)はウmanoアシガタの八重咲のものを指す。



サクラ(ソメイヨシノ)

バラ科の落葉高木。オオシマザクラとエドヒガン(雑種)の雑種。明治初年に東京・染井の植木屋から売り出された。



モッコウバラ

バラ科バラ属のツル植物。茎は長さ6m以上に達する。枝、幹、茎葉すべてにトゲがない。花弁数は約100枚。



モナルダ

シソ科ヤグルマハッカ属。一年草または多年草。別名ベルガモット。7～9月に開花する。



ワレモコウ

バラ科ワレモコウ属。開花は7～10月。花に見える部分は萼(ガク)で、花自体は殆ど退化している。



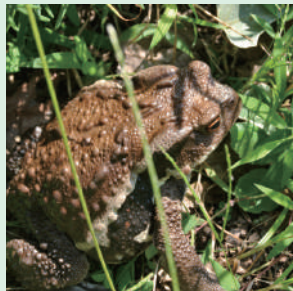
シジュウカラ

スズメ目シジュウカラ科。体長14cm、白い頬、胸から腹にネクタイ模様。細い声でソーピーやツツピーを繰り返す。



メジロ

スズメ目メジロ科。体長12cm、緑がかった上面で目のまわりが白い。チーと甘い感じの声、長く複雑なさえずり。



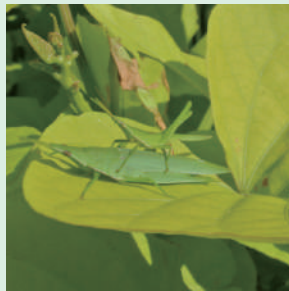
アズマヒキガエル

両生綱無尾目ヒキガエル科。主に夜行性。農耕地や二次林、草原、自然林、都市公園などに生息。皮膚から毒液を分泌する。



ヤマトシジミ

チョウ目シジミチョウ科シジミチョウ亜科。大きさ9～16mm。人家周辺でもよく見られる小さなシジミチョウ。



オンブバッタ

バッタ目オンブバッタ科。体長25～45mm。上にのるのがオス。畑や道端の草地にごく普通に見られる。



ニホンカナヘビ

平有鱗目カナヘビ科。ニホントカゲより尾が長い。平地～山地の草地や藪に住み、人家の庭先でも日光浴する。



目をこらすと様々な植物や昆虫、動物が見られる「馬の背」。青々としているのは、芝ではなく「チガヤ(茅)」で、虫や動物の隠れ場所でもある。周辺の花壇などは「西東京・狭山緑道の会」の皆さんが手入れやゴミ拾いまで行ってくれているので、気持ち良い空間が保たれている。



千川上水に隣接する、豊かな自然環境を活かした「MUFJパーク(仮称)」建設予定地の武蔵野運動場。



上保谷新田の人々が勧請した「阿波洲神社」。現在も地域の人々に守られている。



玉川上水から分水点(境橋)を経由し千川上水を辿る、自然と歴史のお散歩コース。



昭和30年代柳橋付近。毎日のお買い物が楽しめる充実した商店街がありました。

団地もそれぞれ歴史を持つています。現代では、2005年に緑道に隣接していた石川島播磨重工業の工場が売却され、大型マンションや武蔵野徳洲会病院、データセンターの建設により、一帯に大きな変化がありました。さらに、2019年に惜しまれつつ閉店した「珈琲館 くすの樹」が、「スターバックス西東京新町店」へ生まれ変わった事は、喫茶ファンのみならず近隣住民でも話題に。そして今後更に変化していく新町。2023年6月には柳沢4丁目の武蔵野運動場が「MUFJパーク(仮称)」として一般公開予定との発表がありました。新しい人が繋がり、どんな変化していくのでしょうか。



お話を聞いた人

矢口直生さん
西武・武蔵野パートナーズ(NPO birth所属)
「ご近所に暮らす人たちの生活道路でもあります。車の往来がなく、手入れされた公園が所々に連なる希少な場所。地域の風景や空気感の違いも、楽しんでもらいたいですね」

馬の背の斜面は、武蔵野の昔ながらの自然が残る生物多様性スポット。定期的な草刈りをする事で花が咲く植物があったり、昔は当たり前だった野の花といわれるフェリンドウやワレモコウなどの植物がこの地に生息していたり、人の手が入ることによって保たれる生態系となっています。

馬の背の斜面は、武蔵野の昔ながらの自然が残る生物多様性スポット。定期的な草刈りをする事で花が咲く植物があったり、昔は当たり前だった野の花といわれるフェリンドウやワレモコウなどの植物がこの地に生息していたり、人の手が入ることによって保たれる生態系となっています。

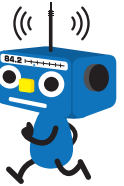
「馬の背」とは、約200メートルにわたって続く土手で、緑道のシンボリックスポット。狭山境緑道の西東京市と小平市の間にまたがり、地下に埋設されている水道施設が石神井川の上を通る一本道。上向台小学校の桜と、西東京市の木50選に選ばれているエノキの木を通り過ぎると、突然に空間が抜け、空が広がります。

土手に並行して走る緑道沿いには、ケヤキ、アジサイ、などの他にポラントニアが手入れをしている花壇もあり、彩りも植物の種類も様々。気持ち良い空と、豊かな自然を目にすることが出来ます。

ラジオの森の西東京さんぽ

たまがわ せんがわ じよみさい

玉川千川上水ウォーク



ルート制作・監修
滝島 俊

武蔵野台地のわずかな尾根を見極めて、高低差を利用し開削した玉川上水と千川上水。飲料水や農業・工業用水として使われたけど、今はもう使われていないんだ。遊歩道の木々や植物、上水に飛来する鳥に出会える癒しスポットとして親しまれているよー！



玉川上水
江戸の人口増加に伴う江戸市内の飲料水不足を解消するために作られた玉川上水は、羽村の多摩川から開削が始まり、幾度の困難を乗り越えて、承応2年（1653）羽村から四谷大木戸までの約43kmが通水されました。高低差は僅か92mという高度な土木工事でした。翌年には江戸市中への通水（地下水道）が始まり、江戸市民の生活を潤しました。

千川上水
千川上水は、第五代将軍・徳川綱吉の時代（元禄9年・1699）に、小石川御殿、湯島聖堂、浅草寺御殿、六義園など、将軍御成の地への上水として開削されたため、神田上水、玉川上水と並び「江戸の三上水」と呼ばれました。江戸への飲料水、農業用水としての供給が終わると、近代工業の発展に伴う工業用水としても利用されました。当初は玉川上水の境橋付近（西東京市新町4丁目）から分水されていた千川上水ですが、水質汚染や疫病などによる廃止と再開が繰り返されました。分水口の付替えも行われ、現在は平成元年（1989）の清流復活事業により流れが復活。分水も復活し遊歩道も整備されています。

- 1 玉川上水・小金井サクラ**
西東京市域の玉川上水は、新町6丁目から新町4丁目目の境橋、千川上水取水口までの約700mです。上流から続く堤の桜並木は「小金井サクラ」として賑わっています。
- 2 千川上水取水口(2)**
明治13年に岩崎弥太郎らによって設立された千川水道株式会社によって、千川上水は飲用として復活します。その時に水量を増大させるために新たに増設された取水口です。明治40年迄使われていた様です。巻揚器が確認できます。
- 3 千川上水取水口(1)**
明治4年に設置され、昭和41年迄使われた取水口で、ここから取り込んだ水は、玉川上水に沿って五日市街道の下り線の地下を暗渠となっておりました。開渠となるのは約900m先の境橋付近です。現在も石積み分水堤と巻揚器が残っています。
- 4 スターバックス(旧くすの樹)**
この地には地元で暮らした珈琲館くすの樹がありました。西洋のシャトーの様なたががある建物で「相棒」などのテレビドラマ等でよくロケに使用されました。
- 5 水番所(水衝所)跡・玉川上水の碑**
玉川上水の流量確認、整備清掃のために水番人が置かれた場所です。明治になり名称を「水衝所」と変えましたが、昭和55年まで存在しています。玉川上水の碑は、昭和56年に日本紀行文学会が建立しました。
- 6 千川上水清流の復活の碑**
都市化と共に下流域では暗渠化され、流水も途絶えた事から、この地域以外の殆どが暗渠化されました。そこで東京都では「清流復活事業」として開渠部5kmを整備し、平成元年に清流が復活しました。
- 7 鎮守前水車跡地**
上保谷新田村(現西東京市新町)の名主であった平井伊左衛門が千川上水の水を使ってこの地に水車を設置しました。水車を回すための水路は千川上水から、専用水路として分水したものでした。
- 8 康楽園跡地**
かつてこの地には「康楽園」という名の私設庭園がありました。当地の名主家であり、御門訴事件の中心人物、また後の保谷村長として活躍した平井通作が設けたものです。詳しくは「P」をご覧ください。
- 9 招魂塔**
新町1丁目2番にある墓地の北隅にある石塔。明治3年に品川県が発令した社会政策に対し、近隣12ヶ村が集団門訴を起し、弾圧され犠牲者が出た事件に対する慰霊碑とされています。
- 10 文字庚申塔**
五日市街道と鈴木街道の分岐点に立つ文字庚申塔は、上保谷新田村が天明4年に建立したもので、村の入り口に造立されました。市指定文化財第20号となっています。
- 11 石橋供養塔・庚申塔**
武蔵野大学の交差点を横切る千川上水に架けられた井口橋に対する供養塔。天保12年の建立です。石橋への感謝と供養と同時に、悪霊の進入を防ぐ狙いもあったようです。隣接する庚申塔は、造立が天保11年という以外は願主目的は不明です。
- 12 三菱UFJ銀行武蔵野運動場**
昭和26・27年にかけて旧三菱銀行が取得した運動場で、緑が残された地区となっています。来年6月には「MUFJパーク(仮称)」として、一般開放する新施設となる予定です。
- 13 親和橋(いんしん橋)**
柳沢3丁目と武蔵野市八幡町4丁目との間の千川上水に架けられた小さな無名橋。昭和34年に地元の方の熱意と行政の理解により設置された架け橋です。ここの橋の愛称があります。
- 14 坂上水車跡**
この地には元々平井家が設置した水車小屋がありました。水車用の水路は、現在の霞窪橋付近から分水し、道の北側を流れて来ました。戦中は中島飛行機の工場に動力として稼働していたようです。
- 15 阿波洲神社**
宝暦2年に粟嶋明神として勧請された上保谷新田の鎮守様で、明治期に阿波洲神社と表記を変えました。安産祈願や、五穀豊稔を祈願する神様など、多くの奉納絵馬が残されており、市の指定文化財となっています。
- 16 多摩湖自転車歩行者道**
村山野池(多摩湖)から境浄水場までの約10kmを結ぶ送水管が埋設されている都道で、現在はサイクリングやジョギング等で賑わっています。自然豊かな道です。起点には水の神殿のモニュメントがあります。
- 17 おおぞら公園(ヒートエンジンのふる里)**
ここにはかつて石川島播磨重工業の工場がありました。石川島重工業の工場に移ったのは国産ジェットエンジンを製造していましたが、工場は移転し跡地に公園ができた際に「工場」の歴史とモニュメント「タービンプレー」が設置されました。
- 18 野菜直売所(じぶじぶさんの街)**
多摩湖自転車歩行者道には多くの野菜直売所がありますが、ここには「じぶじぶさんの街」があり、皆さんの街が散策する人の目を惹きつけています。
- 19 風景の窓**
道路脇には豊かな自然が残されており、季節ごとに変化する風景を、絵画を見るように切り取って鑑賞できます。現在2ヶ所にパネルが設置されています。
- 20 馬の背**
小平市との市境で石神井川と交差する場所です。石神井川は低い場所を流れているため、導水管を設置するために築堤が作られました。高台からの景色は季節問わず素晴らしいです。

この地図をみて実際に歩いた人は編集部までお問い合わせください！
田無駅「まちテナメント」で「西東京マラソン」シリーズ開催！
842fm@842fm.com

玉川上水、千川上水とも基本的には左岸(下流)に向かって左側を歩くと想定していますが、歩行者としては渡れない所もありますので交通ルールに則って歩いてください。